



あらいぐまくんのおはなし

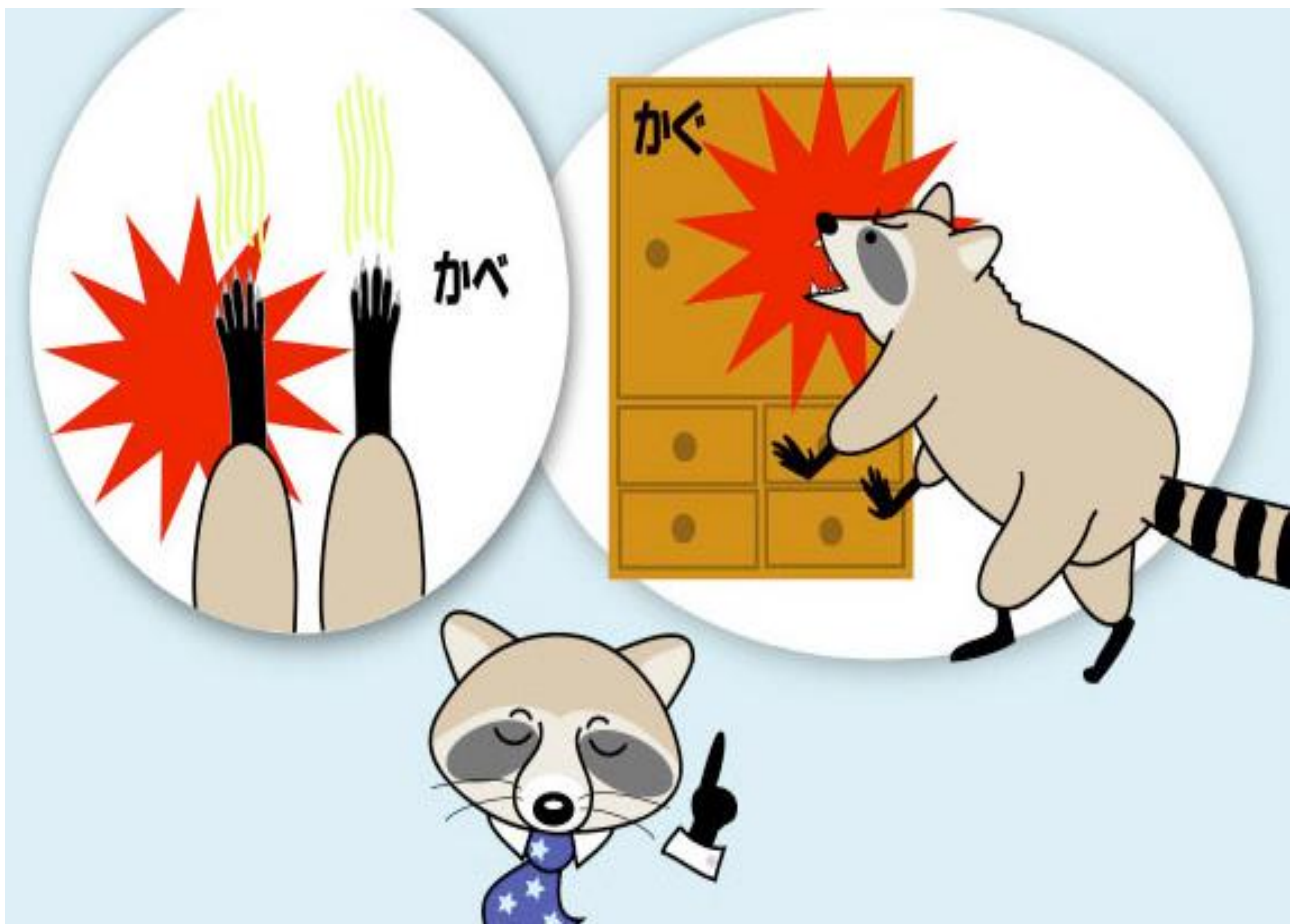
ぼくはあらいぐま。おおいたの山の中にすんでいる。

どこからきたの？

「どこからきたの？」



ペット屋さんにいたぼくは、あるおうちのペットとしてむかえられ、最初は楽しく暮らしていたんだけど……

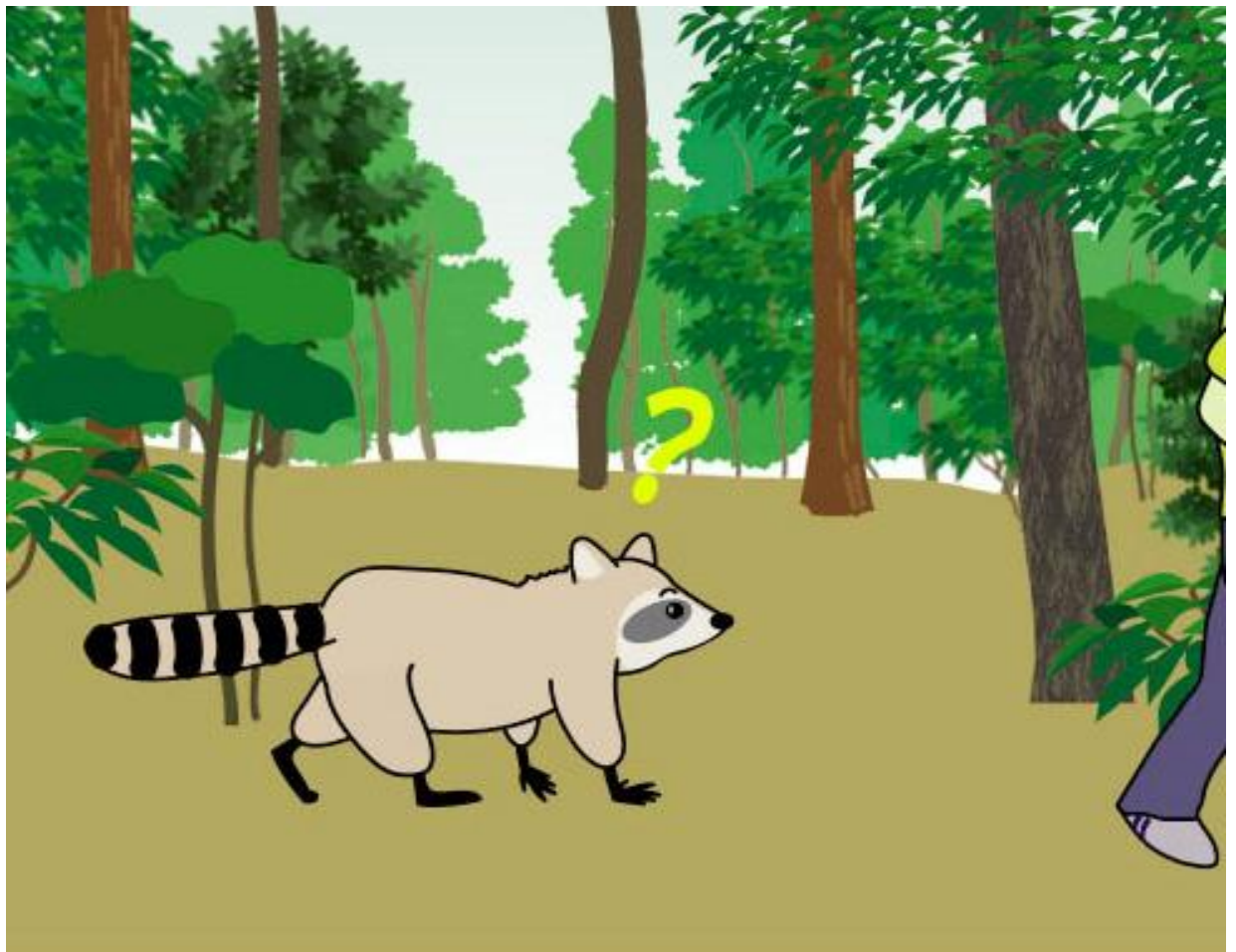


おとなになってきたぼくは、だんだんと飼い主の言うことを聞かなくなった。

「壁をひっかいちゃだめ！」

「家具をかじっちゃだめ！」

そんなこと言われてもぼくたちアライグマはかじったり、ひっかいたりするのが大好きだし、家の中をすみからすみまで探検しなければ気がおさまらない。言ってみれば「仕事」みたいなもの。人間は「いたずらばかりして困る」というけどね。



ある日、  
「どこでも好きなところへいきなさい」  
飼い主がぼくを山の中に連れてきて、そういった。

もう、ぼくのことをきらいになったんだって。あんなにか  
わいがってくれていたのに。

ぼくはすてられて、突然ひとりぼっちになった。

ひとりぼっちで  
だいじょうぶ？

「ひとりぼっちで大丈夫？」



エサももらえない、あたたかいおうちもない、ひとりで生きていかなきゃならない。  
だけどぼくはたくましく、元気にくらしている。

たいせつにそだてた  
すいかが・・・！



エサだって・・・  
近くの畑に行けば、食べ放題。

(農家の人)  
「せっかく大切に育てたスイカが台無しだ～」

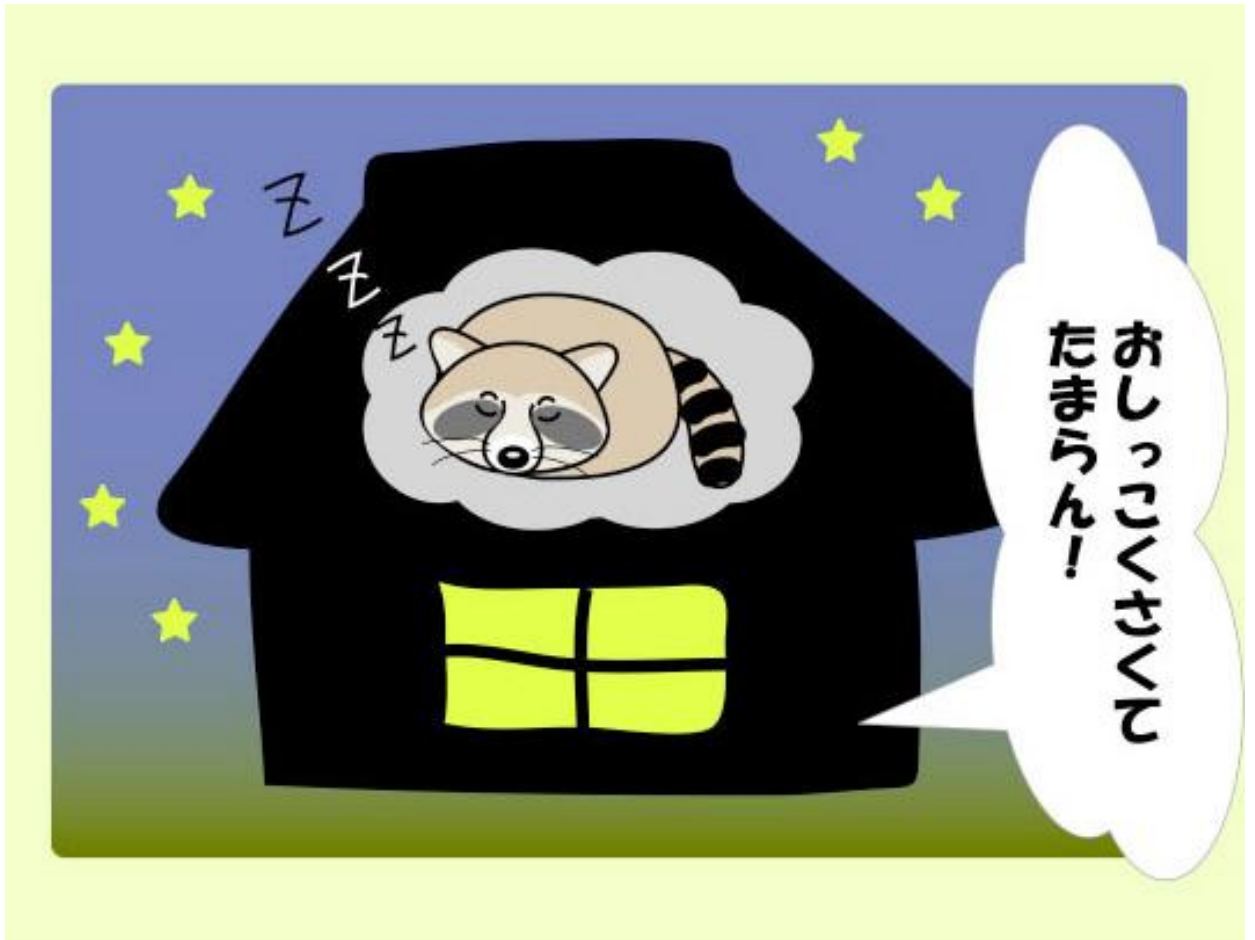




木登りが得意だから、トリの巣にだって近づける。

(鳥のお母さん)

「私の大切な卵が食べられちゃうよ～」



すみかだって…。

人のおうちの屋根裏はとってもあたたかくて住みやすいよ。

(家の持ち主)

「おしっこやフンのにおいがひどくてたまらないよ～」



見晴らしのいい巣穴、みつけた！

(フクロウの赤ちゃん)

「わたしたちのおうちなのに、とられちゃったよ～」



ぼくはがんばって生きているだけ。  
でも、ここってぼくが住んでいいところなのかな・・・。  
みんなはどう思っているんだろう・・・。

おしえて、きみはどう思う？

# おしまい

大分県景観自然室作成

文と絵：川野智美 2010年7月

## おしまい

アライグマは、見た目のあいらしさもあり、かつては、ペットとして飼われたり、動物園でも人気者でした。現在、多くの都道府県で「のらアライグマ」が、目撃されていますが、それらは、家庭のペットが捨てられたり、動物園から逃げだし、野生化したものといわれています。

アライグマは生態系や農作物に被害をおよぼすことから平成17年からは「特定外来生物」に指定され、売ったり買ったり飼育したり捨てたりすることが禁止されました。

日本はアライグマの天敵となる動物がいないので、アライグマにとって暮らしやすい環境なのでしょう。(原産地の北米でのアライグマの天敵はピューマなど)。大分県内でも、アライグマの目撃情報があり、農作物の被害が出ている地域もあります。繁殖の確認もあり、確実に大分県内の自然の中にもアライグマはいます。

「安易に飼って、手に負えなくなったら捨てる。」わたしたち人間のこのような身勝手さにアライグマは翻弄されているといえるのではないのでしょうか。人間の身勝手な行動の後始末は、人間の手によってつけられます。現在、全国各地でアライグマの有害鳥獣駆除による捕獲や外来生物法による防除がすすめられています。アライグマの例をもとに、わたしたち人間の生きものに対する責任について、ぜひ一度考えていただきたいと思います。